

こだま通信

37号



【編集】特定非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西嫁島1-1-19 ☎&FAX 0852-28-8162

来春からの障害支援区分の調査項目が示されました。

4月に施行された障害者総合福祉法では、これまでの障害程度区分を障害支援区分に変更することになっています。6月にその調査項目が示され7月には広くパブリックコメントの募集がありました。秋にはいくつかの自治体で試行され、来春から全員がこの判定基準で審査されることになっています。

この春、障害者自立支援法は障害者総合福祉法に変更になりました。そして2014年4月（来年春）には、障害者サービスを利用する際の基準にされてきた障害程度区分が、障害支援区分に変更されます。変更の理由は、「障害の特性に配慮し、障害の程度ではなく、支援の度合い」を測る制度にするため、と説明されています。

今回の変更で大きく変わるのが、調査項目の変更です。これまで106項目あったものが80項目に整理統合されます。そして、知的障害や精神障害者の特性をより反映させるため、新たに6項目が追加されました。例えば、集団に適応できないことの有無や頻度の確認、危険や異常を認識し安全な行動を行えない場合の支援などです。これまでの106項目の調査では、一時判定後の区分変更が身体障害の方が20.3%だったのに対し、知的障害の方は43.6%、精神障害の方は46.2%と高くなっていました。今回の改正で知的障がい者や精神障がい者の特性をより反映できるようになるということです。

また、調査項目の回答選択肢も、これまで日常生活の中での行為や行動が、できるかできないかという判断基準だったものを、「支援が必要かどうか」といった基準によって選択できるように変更されています。障害程度区分では、出来ない場合は介助が必要となっていましたが、今回の障害支援区分では、支援という言葉に置き換わっています。評価方法でも、これまで「より頻回な状況」に基づき判断されていたものを

「できたりできなかったりする場合」は、「できない状況」に基づき判断するように示されています。自宅ではできいても、他の場所ではできない状況や、家族とは出来ていても、他の人とは出来ないといった状況は、支援や介助が必要な状態と判断されるようになります。

こうした判断基準を、事業者の側から見てみると介助と支援の言葉の違いのように、より本人の意思を尊重し、本人が望むことを、したい行為が出来るように手助け（支援）する立場にあることが明確になっているように思います。いよいよ、本人の望む生活がおくれる時代になってきたかもしれませんよ。

【山田 久】

【調査項目で追加される事項】

健康栄養管理	体調を良好な状態に保つために必要な健康面・栄養面の支援
危険の認識	危険や異常を認識し安全な行動を行なえない場合の支援
読み書き	文章を読むこと、書くことに関する支援
感覚過敏・感覚鈍麻	発達障害等に伴い感覚が過度に敏感になると、鈍くなることの有無
集団への不適合	集団に適応できないことの有無や頻度
多飲水・過飲水	水中毒になる危険が生じる程の多飲水・過飲水の有無や頻度

調査項目はインターネットでダウンロードできます

研修報告

今年は、職員の研修に重点を置いた一年にしたいと思っています。
それぞれ研修を受講した様子を伝えてもらいます。

行動援護従業者研修を受けて 7/2~7/4

先月松江合同庁舎にて行動援護従業者研修を3日間受けさせてもらいました。講義内容は「行動援護を理解する」「行動援護の基本」「行動理解の基礎」「行動援護の技術」と大きく4つに分かれていきました。講義を受けてサービス利用計画や個別支援計画、アセスメントの重要性をあらためて感じる事が出来ました。アセスメントによって、一人一人の特性をきちんと理解する事。その人の「行動」の意味をきちんと理解する事が大切だと感じました。

行動援護は段取り八分と言われました。見通しをもってもらうために、その人に分かるスケジュールの提示の仕方や、場所やコースの下見などをしっかりして危険な物、興味を引く物の確認などをすることでパニックにならないようにするための段取りをする事の大切さです。行動援護にかぎらず、普段の支援でも同じだと思いました。毎日楽しみに来られる方にしっかりと準備して、ともに楽しい一日を過ごしたいと思います。

この研修には、老人関係の施設の方もたくさん参加されていました。今でこそ先輩職員さんに教えてもらったり、本を読んだりして障害についての知識も少しずつついてきたと思っています。演習の時間に話をしたのですがすごい考え方違いました。

障がい者の方が「街の中でいきいきと」すごしていくためには、もっともっと一般の人に障がいの事を知ってもらえるような取り組みをしていく必要があるのではと思いました。自分でも、なにか出来る事をしていかなくてはと強くおもいました。【井川 樹】



ホームヘルパーフォローアップ研修を受けて 7/9~7/10

7月9日・10日に適切なホームヘルプサービスを提供するために、従事者の知識・技術の向上を図ることを目的とした研修を受けてきました。

障がい者に関する施策・サービスについてや介護等サービス内容について、てんかん発作時の対応方法やコミュニケーションの技術など、初めての研修とあってとても興味深いものばかりでした。特に介護等サービスについてはヘルパーの質について社会福祉法人むそうの戸枝さんがお話しされたことが特に印象に残りました。戸枝さんはヘルパーにとって一番大事なことは、ヘルパー自身が『健康』であることと言いました。『健康であれば、常に利用者の方に対して『笑顔』でいることができます。』そして、続けて『健康であるために皆さんはどんなことを常日頃からされていますか』と言われました。『朝ご飯はきちんと摂っていますか、睡眠は充分ですか』と。

自分自身の健康を意識管理することはとても難しいことだとおもいます。しかし睡眠を十分にとって朝ご飯をしっかり食べるだけで最低限その日は頑張ることができる気がします。私はまず簡単なことから始めてみようと思いました。自転車で通勤していますが、もっと続けようとも思いました。人から言われてではなく、自分ができることから始める事で無理なく始めることができ続けることができると思います。続けることができたらそのうえでさらに新しいことを始めればいいのかなと思いました。



今回研修を受けて、さらに『健康』を意識することができました。利用者さんの笑顔を引き出すために、まずは自分たちが『笑顔』にならないといけないと感じました。これから、もっともっと利用者の方の『笑顔』のそばで仕事をしていくために、自分自身が『健康』であり続けよう。そう考えさせられた一日でした。【田崎 優】

福祉職員生涯研修【指導的職員研修課程】を受講しました。7/31～8/1

講義では主に福祉職場で指導的立場の職員に求められる資質や知識・技術などを理論や体系的に学ぶことができました。また指導職として組織を維持していく為のリーダーシップの発揮の仕方や、チームや職場内で起こる問題を解決するためのプロセスなどを、グループワークやロールプレイを通じて学ぶことができました。

指導といっても様々です。直接的指導であったり、何かの活動や行事に責任をもって取り組むことであったり、ヒントだけ与え自発的に動くようにさせたり・・。各職員の課題や取り組むべき事柄を明確に示し、経験やスキルによって指導方法をかえていくのだそうです。なんとなくわかっていたことが、イメージ図や定義を知ることで、いつも頭の片隅において行動することができそうだと感じています。

「組織の中で働くことで、自分が何ができるか、どんなことに貢献してくれるのか問いたい」山田さんがここ最近職員に伝えていることを、講師もまったく同じに話されました。こだまはより組織として機能していくために、成熟度をあげていく時期にきているのです。

私は施設長という立場になって数年。もっともっと自分を磨かないと現場の職員がこまってしまうことを痛感しています。指導的立場とは、幅広い視野を持ち、みんなで進んでいけるよう目標を掲げ、職員を支える役割なのだと思います。そのためにも個々の知恵や技術を磨き、人との関わりから心を磨いていくようにならなくてはと感じることのできた研修でした。

【川上太郎】

平成25年度行動援護従業者養成研修に参加して

7/2～7/4

行動援護サービスの対象者の多くは、認知特性や感覚過敏等の「要因」を持ち、日常の生活に置いての環境の中でたくさんの困った感をいだいている自閉症の方たちです。その方が行動する際に生じ得る危険回避や外出時における移動中の介護などの援助をすることが行動援護のサービスの内容となります。

そのサービスを担う支援者に求められる力量は多くの事があります。利用者の要求を適切に受け止め、サービスで実践できる『人間性』と『行動力』はもちろんのこと、専門的な知識や支援技術等が必要です。3年前に行動援護の中央研修に参加する機会を得ました。それが縁で島根県での研修に講師陣の一人として参加させてもらっています。

本当は、自分自身が迷いながら行動援護の支援を続けているのに、講師などやっていのだろうか?と迷いと不安の日々が続きました。チームを組んでの研修ですので無事に終わることができ、毎回ホッとしています。

行動援護のサービスを必要とする利用者の方にとっては、理論に裏打ちされた支援の技術が必要です。その人にあった支援の方法が解れば、混乱することなく過ごすことができます。解りやすい表示が増えることは街全体のバリアフリー化につながります。講習を受けた多くの方が、街の中の困難さを無くしてくれる大きな力になると思っています。

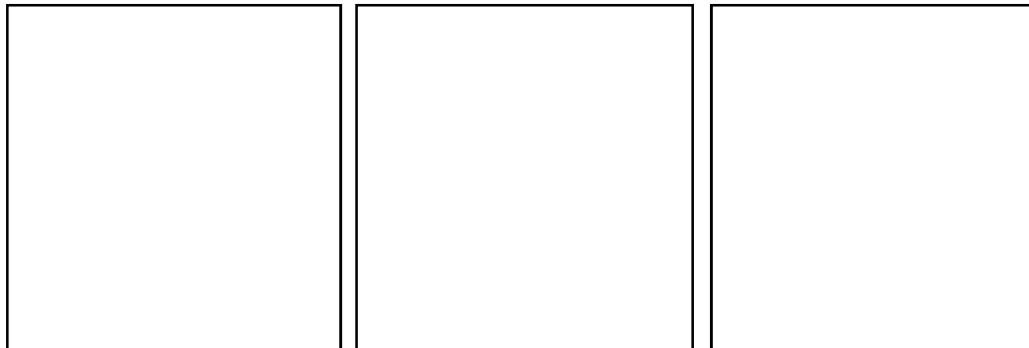
【渡部健史】

なべちゃんがいく⑤

はみがきの巻

作・画 たけし

好評連載中のなべちゃんがいくは、pdf版では残念ながらご覧になれません。毎回なべちゃんが、何かの事件を巻き起こしています。



特集



生活介護ほんそごグループの活動

2011年4月から、建物が狭くなった生活介護は、すぐ近くに新しい建物を借りることができ、二つのグループになって活動することになりました。こだまでは『誰でも利用することができる生活介護』にしようというのが望みでした。二つのグループに分かれるにあたって、医療的なケアも必要とする方も受け入れていただけるグループを作ることになりました。それがほんそごグループです。今回は活動3年目になるほんそごの日常を紹介します。



「ほんそご」とは

「ほんそご」とは、出雲弁で「最愛の子」という意味です。子というと子供を想像しますが、子という意味には「両親の間に産まれた人」という意味があります。「両親、家族、そして社会から、いつでも愛される人であれ」という思いからグループの名前にしました。



「ほんそご」の利用者は

ほんそごの利用者は、現在8名ですが1日平均4～5名の利用です。それに対して専任の職員が3人、利用者にあわせて1～2名の職員の増員があります。

ほんそごの一日

ほんそごの一日は、9時のお迎えから始まります。全員が揃うのは10時過ぎです。それから朝の会をして、活動に入ります。午前中の活動は、社会見学でお出かけしたり体験を増やす活動が主になっています。お昼になると昼食です。なるべく1対1で食べてもらえるように、ヘルパーのスタッフにも手伝ってもらっています。昼食後は歯みがきをしてゆっくり過ごします。

午後は1時30分から作業活動をします。3時頃になるとお風呂の利用の方は入浴が始まります。家庭用のお風呂で職員と1対1での入浴です。夕方の送迎は4時から5時にかけて出発します。お風呂に入らない利用者の方は、近所にウォーキングに出たり。本やテレビを見てゆっくりと過ごします。



ほんそごの活動は

午前中の社会見学は、季節の行事や普段なかなか体験できないような場所に行くように心がけています。こだまの近くには県立美術館、JR乃木駅、市営バスや一畠バスのバス停などがあり、お出かけしやすい立地条件にも恵まれています。場所の狭さは、地域の中にある社会資源を生かしてパワフルな活動を作っていく魅力があります。



うどん打ち職人の誕生



プランターでじゃがいもの収穫

午後の作業活動では今年から、市民農園を借りて本格的に農業に取り組んでいます。土や作物の匂いを感じ、お日様や風を季節に応じて感じてもらうことができます。もちろん収穫の喜びもいっぱい感じます。一人ひとりの状況にあわせて作業活動ができるホワイトセメントと新聞紙を混ぜたりサイクルの鉢づくり



もしています。その他、消しゴムはんこのスタンプを押したカードづくりもしています。作業をすると半日100円の工賃も貰えるんですよ。

ほんそごが大切にしていること

ほんそこのほとんどの利用者のかたは、言葉で要求を出すことができません。からだ全体を使って表してくれるようすで察知しなければなりません。そんな関係が築けるのは、安心して任せてもらえる人間関係です。職員配置は一人ひとりの利用者の方にあった形になるよう心がけています。



見えてきたこと・・

わたしたちがほんそこの利用者にかかわって一番感じるのは、一人ひとりそれぞれの形で要求を出している、ということです。毎日のかかわりの中で、そうだったのか～と気づかせてくれることが沢山あります。そんな一人ひとりの要求を素早く察知し、行動に移してあげるようにしています。



そして、つくづく思うのは人って関係性の中で生きているということです。それまで静かに過ごしていた利用者の方が、職員が近くに来たかと思うや、手を出して色々な要求を訴えてきます。その要求も、職員一人ひとりによって違った要求を出していることもあるのです。毎日の繰り返しの中で関係性ができているのだな～と思わせられる出来事です。



環境で大事ですね

こんな関係が築けるのは、こだまの環境にあると気づきました。民家で活動しているほんそごは広くありません。先日も、入所施設で職員をしていた方との会話の中で「こだまって、洗濯物を干していくても利用者の方の動きが見えますね」というやりとりがありました。確かに機能的に作られた施設では死角になる部分も多く、その分活動も部屋ごとに決められたり、時間毎に動いたりしないと行けなくなってしまいます。ところが、ほんそごの場合は、どこにいても全体の様子が分かるのです。狭さ故の利点（？）と解釈しましょう。



これからの夢

ほんそごの活動は外に出かけることが多く、松江市内だけではなく春の出雲や秋の大山などにも出かけます。でもこれまで、活動時間の中でのお出かけでした。思い切って、飛行機や新幹線に乗って宿泊する旅行に出かけてみたいと思っています。2年前から、夏には船に乗って隠岐の島で海水浴をしよう、といいながら実現できていません。来年こそは実現させたいと思います。



ほんそごでは社協の家族風呂を借り切って一日過ごすという活動を続けています。ゆっくりと温泉風呂につかり、のんびりと過ごします。こんな時は利用者の方も、のびのびとしています。そんな様子を見ていると、いつか玉造温泉のホテルでリッチなお泊まり体験をしてみたいな～とほんそごの職員達は思っています。ぜひ近いうちに実現させましょう・・・。



【ほんそご職員】

その人にあった支援のしかたは・・・

～行動援護サービス利用者を通して考える～

NPOこだまの利用者の中には、自閉症スペクトラムと言われる障害領域に含まれる方が多くいます。そんな方への支援方法について、専門的な知識や技術の習得が是非とも必要だと痛感し5年前より若い職員を中心に研修を積極的に行ってきました。研修先は佐賀や福岡、豊橋や境港の事業所を訪ねさせてもらったり、行動援護の中央研修に参加して新しい支援の方法や技術について学んでもらっています。

その甲斐あって、最近では事業所全体に『構造化』『スケジュール』『視覚支援』と言った言葉が普通に飛び交うようになってきました。そして、1対1の行動援護でのサービスを提供していた利用者の方を、生活介護の日中活動のサービスの中で引き受けられるようになってきました。集団での活動にも参加することができたり、なにより生活介護の利用者が自分たちの仲間として普通に受け入れている様子は、ほのぼのとしたものを感じます。毎日遅くまでカード作りをして、明日の受け入れの準備をする若い職員達は、どこか自信ありといった表情に変わってきています。

行動援護の利用者から学ぶ

行動援護と聞くとなんだか、危険、飛び出し、パニックなどのマイナスのイメージを抱きがちです。

私も最初は不安でいっぱいでした。何かあったらどうしよう、他の人に迷惑はかかるないだろうか? 数えればきりがありません。しかし、利用者さんにも私たちと同じように、地域でイキイキと過ごして欲しいという気持ちの方が強く湧いてきました。

行動援護研修の本を何度も読み返しました。しかし実践ではうまくいくこともあれば失敗することも



ありました。以前に入っていた職員さんからの引き継ぎをノートにメモしてその利用者さんの性格や特徴を観察することから始めました。

テキストに載っていることも凄く大事ですが、その利用者さんの特徴や特性を知り、その利用者さんに合った支援がとても重要だと言う事に気づきました。カードが合う利用者さんもいればジェスチャーや体で表すほうが伝わりやすい方もいます。

まずは信頼関係をつくること。笑顔で挨拶して、あなたにとって私は安全ですよ、味方だよ、と思っ

てもらうこと。この方はこれが苦手で、これは得意だな。これはできないけれども、これはできるな。こんなやり取りを重ねるごとに利用者さんとの距離が近くなってきました。近くなりすぎても、離れすぎてもいけない、利用者さんにあった距離をたもてるようになってきました。

そうすると不安に思っていたことや、問題行動と思っていたことが、以前に比べすごく減ってきました。今では、一緒にフットサルなどでバスを出したりシュートをしたり、みんなで楽しく過ごす事ができています。

色々なことができるようになることもすごく大事なことだと思いますが、まずは今出来ている事を褒めてあげる。それから次へ。焦らずにすこしずつ前に進んでほしいと思います。【橋本紳也】

こだわり行動から学ぶ

私は週に2回、現在は生活介護（以前は行動援護サービスを利用）の利用者の方の支援に入らせていただいている。スケジュールは絵カードを使って、行き先や流れを提示しています。以前は今日の誘導の仕方はあまりよくなかった、失敗だった・・・そんな日もありましたが、現在はとても落ち着いて活動ができます。

ほんそご職員奮闘記

ロールプレイで車椅子体験

先日からほんそごグループの職員が、利用者の疑似体験の試みをしています。半日ですが、車椅子に乗って他の人から介護を受け、昼食を食べさせてもらう体験です。いつもとは違う支援を受ける側になって見て気づくことが沢山あるようです。

こだわり行動が始まれば、それを止めると、怒りに変わり不穏な表情になります。前の動きが終わってこだわりに移るかもしれない瞬間、一つの行動が終わった瞬間に次の活動に誘導することを職員間で確認して、そのことを心がけて支援にあたせてもらっています。そうすると、これまで続けていたこだわりだった行動をしなくても次に移れるようになってきました。心の中でガッツポーズを決めて、この次もうまく移行してもらうぞと秘かに闘志を燃やしています。

支援に入らせていただいている間は、心の中には小さな不安をかかえています。いきなりパニックになったら、どうしよう！でも決してその思いを表情に出せません。自分自身に「大丈夫」と言い聞かせ、利用者の方に「安心してね、信頼してるよ、大丈夫だよ」という思いを常に発信しています。なぜなら支援者の不安は利用者の不安につながります。

こだまのサービスを利用され始めた当初と今では様子が全然違います。とっても落ち着いて過ごす時間が増えてきているんです。でもいざれはもっと他のみんなと一緒に活動して、自分のスケジュールを見て一日の流れを理解してもらい、この活動を変えてこれにして欲しい！という要求を職員にだしてくれたりしたら嬉しいなと思っています。利用者の方にわかりやすい、よりよい環境を作り、そして自分自身が昨日より今日、今日より明

日、良い支援者になれるよう一日その一瞬一瞬を大切にしていきたいと思います。

【野津拓馬】



www.npo-kodama.com

今回の疑似体験だけでは、利用者さんの気持ちのほんの一部分しか感じることはできなかったかもしれません、実際に体験することで、耳で聞いて学習して理解していると思っていたことが、『こういうことだったのか』今更ながら感じ取ることができました。その一端を紹介します。

★注目されると嬉しい

声をかけてもらったり、褒めてもらったりするとともうれしい気持ちになった。自分でなく他の利用者さんが優しい声かけをしてもらっているだけで、自分もよい気持ちになった。

★手は気持ちが伝わる

作業後、石けんを使って優しく手を洗ってもらいとても気持ちが良く気分がリフレッシュできた。

★車椅子の散歩

車椅子の散歩は、想像以上に暑く苦痛だった。暑さ対策を痛感した。庭から道路に出るときは、介助者より車椅子に乗っている人が先に出るため、車が来ないか心配で怖かった。

★食事介助

食事の介助は、介助ではなく、一緒に食事を楽しむような介助ができたら良いなと感じた。介助している人がイライラしていたり急いでいたりすると、美味しいという気持ちになれない



ように感じた。疑似体験では一回だけの食事介助だったけれど毎回介助を受ける方の気持ちを思うと、一回一回を大切にしなければいけないなと思った。

【伊藤和枝】

夏ばてしていませんか？



熱中症が過去最多と言われる今年の夏、皆さん水分補給にはとても気を使われている事と思います。その中でスポーツドリンクは熱中症対策にはとても有効な飲み物ですが、誤った方法での摂取が続くと夏バテの原因になってしまいます。

スポーツドリンクには糖分が含まれています。カロリーオフの商品がありますが、カロリーがゼロではありません。糖分をエネルギーに変換するためにはビタミンB1が必要ですので、糖分の摂り過ぎはビタミン不足になり、逆にエネルギーを体内で作りにくい状態になります。体がだるいなどの症状が出てしまいます。肥満の原因にもなりがちです。また、一度にたくさんの冷たい飲み物を摂ると、胃液が薄まり消化機能が低下してしまいます。

「食欲がない。もう夏は嫌だ」と、ぐったりしていませんか？

夏ならではの美味しい食べ物がすぐそこありますよ。夏が旬の野菜を思い浮かべて見て下さい。夏野菜は栄養が豊富で、水分も多く夏の体にはピッタリです。夏は体温調整のために大量の汗をかき、汗とともにビタミンB群、ビタミンCミネラルなど貴重な成分が失われがちです。ビタミン豊富な豚肉やうなぎ、レバー、夏野菜をたっぷり使った食事に、梅干し、レモン、酢などのクエン酸を上手に使い、3度の食事をバランスよくきちんと食べましょう。



夏バテ対策は色々ありますが、まずは食事です。

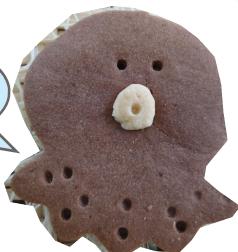
そして頑張り過ぎない事です。疲れたときは早めに休養しましょう。

そしてまた元気な笑顔を見せて下さいね。

【伊藤和枝】

わたしの仕事・・・生活介護クッキー工房編

私は、チュウ子です。
クッキー工房生まれです。
美味しいよ！



わたしのしごとは、クッキーをまるめるさぎょうです。

まるめるさぎょうは、まいにち200こします。

ごま、ココア、きなこ、チョコチップ、クルミの味があります。わたしはきなこが好きです。わたしはクッキーのしごとが大好きです。ときどき、健康ふくしセンターや市役所にはんぱいにもいきます。うれしいです。

おしごとがんばります。

こうちんをもらったら、みんなで
やきにくをたべにいきます。



僕は、こだまの
みんなに作っても
らったクジラくん
です。よろしく！

【星野里奈】



クッキー工房のみんな
が暑さにも負けないで
私たちを作ってくれて
います。みなさんも応
援よろしくお願ひしま
す。